

2013年9月30日 日本テレビ 定例記者会見**《 要旨 》****<発表>****・「特別展 京都一洛中洛外図と障壁画の美」**

10月8日から「特別展 京都一洛中洛外図と障壁画の美」が東京国立博物館で開催される。「洛中洛外図屏風」の展示に加え、京都の龍安寺石庭の四季を1年かけて4K、超高精細映像で撮影し大型スクリーンで見られるなど、大変見応えのあるものになっている。是非この機会に体感していただきたい。

1. 視聴率動向と編成戦略**・視聴率データ**

先週は、全日とプライムタイムがトップで二冠だった。全日1位はこれで6週連続、年度18回目、年間では24回目。プライムタイム1位は、年度10回目、年間14回目となる。

また、7月、8月に続き、9月も月間三冠王を獲得し、7月クール（7月～9月）でも三冠王を獲得した。まずまずの成績であるとは思っているが、あくまでも途中経過であり、最後までしっかり番組を作り、勝ちたいと思っている。

ライバル局も非常に好調であり、これからの「年間視聴率」では残り3か月、「年度視聴率」では残り半期、半年間で勝負は決まる。「年度視聴率」の戦いでは、今有利に戦っているが、「年間視聴率」の戦いは、まったく予断を許さない状況であり、タイムテーブル全体を強化していく。まずは、全日での単独首位をしっかりと固める。

・10月改編

午後10時台の番組を6分延長し、「NEWS ZERO」を午後11時からの放送に変更したこと
の一番の狙いは、基幹ニュースである「NEWS ZERO」の「正時性」と「定時性」を高めることである。また、平日の午後10時台の番組は、視聴率を見込める番組が多く、ゴールデンタイム、プライムタイムの戦いを有利に進められるという編成的な判断から踏み切った。

・他局のドラマ

他局のことではあるが、TBS のドラマ「半沢直樹」には、敬意を表したいと思う。テレビの視聴者離れが時々指摘されるが、やはり良質の作品を作れば見ていただけることを証明してくれた。日本テレビでは、以前「家政婦のミタ」で最終回が 40.0%を記録したが、それを上回る作品が出たということであり、少し悔しい面もあるが、同じテレビ局がさらに上をいく作品を作ったということは、本当に素晴らしいことだと思う。我々も、ライバル局が打ち立てた金字塔に追いつけるように頑張っていかなければならない。

2. 営業状況

・放送収入

タイムセールスの上半期は、前年を若干下回る水準。昨年はロンドン五輪の単発セールスが大きく売上に貢献したが、今年はその反動減が大きかった。しかし、開局 60 年関連の大型特番を放送し、ある程度オリンピックのマイナス分を埋めることができた。

スポットセールスは、8 月の売上が前年同月比 120%を超え、9 月も 110%を超える水準であり、8 月－9 月と好調な動きである。

したがって、タイムのマイナス分をスポットで埋めるという形で、放送収入全体では、第 2 四半期の売上が前年比で 100%を超えると予想している。

10 月の改編について、ネットタイム、ローカルタイム共にスポンサーから支持されており、今後のタイム売上は前年を超えると予想している。クライマックスシリーズなど、野球のポストシーズンのセールスにも力を入れていく。

スポットの 10 月は、前年並みと予測している。

昨年度の第 4 四半期（今年 1－3 月）、並びに新年度の第 1 四半期（今年 4－6 月）のスポット売上でトップとなった。第 2 四半期（今年 7－9 月）は、まだ確定していないが、上半期のスポット売上でトップとなることを期待している。

・放送外収入

映画では、宮崎駿監督が長編作品の制作からの引退を表明したことでも注目を集めた「風立ちぬ」が、先週末までで観客 894 万人を動員し、興行収入 100 億円を超える高い水準となった。

9月28日（土）に公開された「謝罪の王様」は、脚本：宮藤官九郎、監督：水田伸生、主演：阿部サダヲというトリオでのコメディ映画で、2日間で20万人を超える観客動員数を記録している。予想を越える好スタートとなり、興行収入についても大いに期待している。

3. その他

・当社社員の逮捕について

当社の社員が逮捕されたということは誠に遺憾です。事実経過の詳細が明らかになり次第、厳正に対処する方針です。

「秘密のケンミン SHOW」は読売テレビが制作です。読売テレビの方針は、事件と番組にみのもんださんが出演することは直接関係があるわけではないということや番組の種類等も含め、総合的に判断して予定通り放送する、と聞いています。日本テレビは現時点ではそれに異を唱えていません。

・「スッキリ!!」 BPOで審議入り

昨年「スッキリ!!」で放送した特集企画が、BPOで審議入りした件については、私どもとしては重く受け止めている。BPOが今後、どのような結論を出すのか、審議の推移を見守っているところである。当社ではすでに「番組制作向上委員会」などを設置し、視聴者の皆様により信頼される番組作りに取り組んでいる。さらに「取材を依頼した弁護士から紹介されたからということだけで信用してはいけない」、「もっと裏付けを十分にとらなければならない」など、再発防止に向けた社内研修等も行っている。

・BS日テレ「深層NEWS」

9月30日から放送開始となるBS日テレの新報道番組「深層NEWS」では、読売新聞社の編集委員に番組出演していただき、その解説力などを番組の質の向上のために活かしてもらう。また、その豊富な人脈を生かし、ゲストの出演交渉などでも成果を出してもらうことも期待している。

現時点では、地上波とBSのニュース番組は、それぞれの強みを活かすことによって成り立つと考えており、BSではじっくり1つのテーマを掘り下げて見ていただくという、地上波とは違った形の新しい番組を提供していくところに意味がある。

・ハイブリッドキャスト

IPTV フォーラムでもハイブリッドキャストの次世代の放送の仕様を検討しており、我々もこのようなフォーラムに参加し、出来ることをやっていこうという考えでいる。しかし、NHK と民放では経営規模も含めてかなり違うところがあり、きちんと身の丈に合った形でこのような技術革新にも対応していく姿勢でいる。現時点では、日本テレビのソーシャル視聴サービス JoinTV をハイブリッドキャストにも対応させることが現実的だと考えており、番組と連動するセカンドスクリーンと呼ばれるタブレット、スマートフォンも含めた連動サービスを行うことなどを検討している。

(了)